

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第5608017号
(P5608017)

(45) 発行日 平成26年10月15日 (2014. 10. 15)

(24) 登録日 平成26年9月5日 (2014. 9. 5)

(51) Int. Cl.

F 1

E O 4 B 1/00 (2006. 01)
E O 4 C 3/36 (2006. 01)
E O 4 F 13/073 (2006. 01)
E O 4 F 19/00 (2006. 01)

E O 4 B 1/00 5 O 3
 E O 4 C 3/36
 E O 4 F 13/08 1 O 1 P
 E O 4 F 19/00 D

請求項の数 4 (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2010-194451 (P2010-194451)
 (22) 出願日 平成22年8月31日 (2010. 8. 31)
 (65) 公開番号 特開2012-52325 (P2012-52325A)
 (43) 公開日 平成24年3月15日 (2012. 3. 15)
 審査請求日 平成25年8月16日 (2013. 8. 16)

(73) 特許権者 000183428
 住友林業株式会社
 東京都千代田区大手町一丁目3番2号
 (74) 代理人 100076532
 弁理士 羽鳥 修
 (74) 代理人 100107205
 弁理士 前田 秀一
 (74) 代理人 100112818
 弁理士 岩本 昭久
 (74) 代理人 100101292
 弁理士 松嶋 善之
 (72) 発明者 関 真理子
 東京都千代田区大手町一丁目3番2号 住
 友林業株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 木製独立柱

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

建物の外部に取り付けて用いる木製独立柱において、

上方からの荷重を支持する角形断面を有する構造柱と、該構造柱の4側面を外側から覆って各々取り付けられる4枚の木製化粧板とからなり、

前記木製化粧板は、前記構造柱の各側面に上下方向に所定の間隔をおいて取り付けられた複数の被係止金物に、当該木製化粧板の背面に上下方向に前記被係止金物と同様の間隔をおいて取り付けられた複数の係止金物を、当該木製化粧板を前記構造柱に沿ってスライド移動させることで上方から各々係止することによって前記構造柱の各側面に各々取り付けられるようになっており、

前記木製化粧板は、各々背面の両側縁部に沿ってL字形に切り欠いた噛み合せ切欠きを備えており、

前記木製独立柱の各角部において、隣接する一対の前記木製化粧板の噛み合せ切欠き同士を隙間を保持して噛み合わせることで、前記4枚の木製化粧板が、順序を問わずに着脱可能な状態で、且つ拘束を緩めた状態で、前記構造柱との間に通気空間を保持してこれの全周を覆って一体として取り付けられている木製独立柱。

【請求項 2】

前記木製独立柱の各角部における、隣接する一対の前記木製化粧板の噛み合せ切欠きの間に保持された隙間に、防水パッキン材が介装されている請求項1記載の木製独立柱。

【請求項 3】

10

20

前記構造柱の各側面を覆って耐火被覆材が取り付けられており、前記被係止金物は、該耐火被覆材の外側に取り付けられている請求項 1 又は 2 に記載の木製独立柱。

【請求項 4】

前記構造柱の各側面を覆って透湿防水シートが取り付けられており、前記被係止金物は、該透湿防水シートの外側に取り付けられている請求項 1 ～ 3 の何れか 1 項に記載の木製独立柱。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、木製独立柱に関し、特に建物の外部に取り付けて用いるポーチ柱等の木製独立柱に関する。

10

【背景技術】

【0002】

建物の外部には、屋根やバルコニーやベランダ等の上方構造物からの荷重を支持するための、ポーチ柱等の柱が、壁から離れた独立柱として設けられる場合がある。これらの独立柱は、上方構造物からの荷重を強固に支持すると共に、建物の外部に設けられて耐久性のある材質として、主に鋼製のものが用いられており、また円形断面や角形断面の他、その他の種々の形状に加工したり外周部分に装飾を施すことによって、当該独立柱による建物の外観を向上させる工夫がなされている（例えば、特許文献 1 参照）。

【0003】

20

一方、近年、例えば木造の住宅建築物等において、玄関ポーチ等の独立柱に意匠上のアクセントを与えるものとして、木製柱の使用が好まれているが、屋外に木製柱をそのまま用いても、常時されられる紫外線や風雨に耐えられず、数年もたずに汚れや退色が目立つことになって長期間美観を保持することが難しい。例えば木製柱に防腐処理を施し、表面に耐候性塗料を塗布するなどして、頻繁にメンテナンスをすれば、紫外線や風雨による美観の劣化をある程度防げるが、木材特有の経年劣化による割れを防ぐことは難しく、例えば割れた部分から劣化が著しく進んだ場合には、荷重を支持する構造柱としての性能に影響を与えるため、木製柱を丸ごと交換する必要に迫られることになる。

【0004】

これに対して、荷重を支持する木製の構造柱の外周面を被覆して、例えば室業材料からなるカバー材や、合板等の木質系基材の表面に化粧板を接着した化粧パネルを取り付けてなる、ポーチ柱等の独立柱が開発されている（例えば、特許文献 1、特許文献 2 参照）。

30

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献 1】特開平 10 - 140650 号公報

【特許文献 2】特開 2005 - 344478 号公報

【特許文献 3】特開 2005 - 350897 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

40

【0006】

しかしながら、上記木製の構造柱の外周面を被覆した独立柱は、被覆材としてのカバー材や化粧パネルは、室業材料や、合板等の木質系基材の表面に化粧板を接着させたものあって、被覆材として木製の板材を用いた木製仕上げとは異なり、木製柱としての木質感を醸し出させることは困難である。また、木製の板材を構造柱の外周面を覆う被覆材として用いる場合には、木製の板材に割れを生じ難くさせたり、雨水や湿気、雑菌等による影響を受け難くさせたり、板材に劣化や陳腐化が生じた際には交換を容易に行えるようにするなど、特別の工夫が必要である。

【0007】

さらに、準耐火建築物や耐火建築物、或いは住宅金融支援機構に定める省令準耐火構造

50

の建築物では、屋外にある柱であっても建物の荷重を支えている場合は主要構造物とみなされ、それぞれに応じた耐火性能を満たす必要があるが、現行運用されているものは室業系サイディング等の不燃材によって木製の構造柱の外周面を被覆するものがほとんどで、木製の板材を用いた構造柱の木製仕上げはなされていないのが現状である。ここで、木製の板材及び構造柱のみで耐火性能を確保しようとして、例えば「H 12 年建設省告示第 1358 号第二項二の八」に示す燃えしろ設計を行うと、準耐火構造 45 分の柱でも、175 mm 角以上の大断面材が必要となり、意匠上の制約が大きくなってしまうと共に、上述のような経年劣化が木製柱に生じれば、耐火性能の保持も困難となる。

【0008】

本発明は、上述のような技術的課題を鑑みてなされたものであり、被覆材として用いる木製の板材に割れを生じ難くさせたり、雨水や湿気、雑菌等による影響を受け難くさせたり、板材に劣化や陳腐化が生じた際には交換を容易に行えるようにして、木製柱としての美観を長期間容易に保持することのできる木製独立柱を提供することを目的とする。

【0009】

また、本発明は、大断面材とすることなく、例えば省令準耐火構造の建築物としての耐火性能を十分に確保することのできる木製独立柱を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0010】

本発明は、建物の外部に取り付けて用いる木製独立柱において、上方からの荷重を支持する角形断面を有する構造柱と、該構造柱の 4 側面を外側から覆って各々取り付けられる 4 枚の木製化粧板とからなり、前記木製化粧板は、前記構造柱の各側面に上下方向に所定の間隔をおいて取り付けられた複数の被係止金物に、当該木製化粧板の背面に上下方向に前記被係止金物と同様の間隔をおいて取り付けられた複数の係止金物を、当該木製化粧板を前記構造柱に沿ってスライド移動させることで上方から各々係止することによって前記構造柱の各側面に各々取り付けられるようになっており、前記木製化粧板は、各々背面の両側縁部に沿って L 字形に切り欠いた噛み合せ切欠きを備えており、前記木製独立柱の各角部において、隣接する一対の前記木製化粧板の噛み合せ切欠き同士を隙間を保持して噛み合わせることで、前記 4 枚の木製化粧板が、順序を問わずに着脱可能な状態で、且つ拘束を緩めた状態で、前記構造柱との間に通気空間を保持してこれの全周を覆って一体として取り付けられている木製独立柱を提供することにより、上記目的を達成したものである。

【0011】

そして、本発明の木製独立柱は、当該木製独立柱の各角部における、隣接する一対の前記木製化粧板の噛み合せ切欠きの間に保持された隙間に、防水パッキン材が介装されていることが好ましい。

【0012】

また、本発明の木製独立柱は、前記構造柱の各側面を覆って耐火被覆材が取り付けられており、前記被係止金物は、該耐火被覆材の外側に取り付けられていることが好ましい。

【0013】

さらに、本発明の木製独立柱は、該構造柱の各側面を覆って透湿防水シートが取り付けられており、前記被係止金物は、該透湿防水シートの外側に取り付けられていることが好ましい。

【発明の効果】

【0014】

本発明の木製独立柱によれば、被覆材として用いる木製の板材に割れを生じ難くさせたり、雨水や湿気、雑菌等による影響を受け難くさせたり、板材に劣化や陳腐化が生じた際には交換を容易に行えるようにして、木製柱としての美観を長期間容易に保持することができる。

【0015】

また、本発明の木製独立柱は、構造柱の各側面を覆って耐火被覆材を取り付け、被係止

10

20

30

40

50

金物を耐火被覆材の外側に取り付けるようにすれば、大断面材とすることなく、例えば省令準耐火構造の建築物としての耐火性能を十分に確保することができる。

【図面の簡単な説明】

【0016】

【図1】玄関ポーチ部に、本発明の好ましい一実施形態に係る木製独立柱を設置した状態を説明する、(a)は略示側面図、(b)は略示断面図である。

【図2】本発明の好ましい一実施形態に係る木製独立柱の構成を説明する横断面図である。

【図3】構造柱に木製化粧板を着脱可能に取り付ける状況を説明する分解斜斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【0017】

本発明の好ましい一実施形態に係る木製独立柱10は、図1(a)、(b)に示すように、例えば木造の住宅建築物の玄関ポーチ部11の張出し屋根11を支持する柱として、住宅建築物の外部に設けられ、玄関ポーチ部11に木製柱の木質感による意匠上のアクセントを与えるものである。また、本実施形態の木製独立柱10は、建物の外部に設けられて紫外線や風雨にされることによる劣化を効果的に抑制する機能を備えると共に、木製柱としての美観を長期間保持できる機能を備えており、且つ例えば省令準耐火構造の建築物としての十分な耐火性能を有する構造を備えている。

【0018】

そして、本実施形態の木製独立柱10は、建物(住宅建築物)の外部の玄関ポーチ部11に取り付けて用いる木製ポーチ柱10であって、図2及び図3にも示すように、上方からの荷重を支持する角形断面を有する構造柱12と、構造柱12の4側面12aを外側から覆って各々取り付けられる木製の板材である4枚の木製化粧板13とからなる。木製化粧板13は、構造柱12の各側面12aに上下方向に所定の間隔をおいて取り付けられた複数の被係止金物14に、当該木製化粧板13の背面13aに上下方向に被係止金物14と同様の間隔をおいて取り付けられた複数の係止金物15を、当該木製化粧板13を前記構造柱12に沿ってスライド移動させることで上方から各々係止することによって構造柱12の各側面12aに各々取り付けられるようになっている(図3参照)。木製化粧板13は、各々背面13aの両側縁部に沿ってL字形に切り欠いた噛み合せ切欠き13bを備えており(図2参照)、木製ポーチ柱10の各角部10bにおいて、隣接する一对の木製化粧板13の噛み合せ切欠き13b同士を隙間16を保持して噛み合わせることで、4枚の木製化粧板13が、順序を問わずに着脱可能な状態で、且つ拘束を緩めた状態で、構造柱12との間に通気空間17を保持してこれの全周を覆って一体として取り付けられている。

【0019】

また、本実施形態では、構造柱12の各側面12aを覆って耐火被覆材18が取り付けられており、被係止金物14は、この耐火被覆材18の外側に取り付けられている。

【0020】

本実施形態では、木製ポーチ柱10を構成する構造柱12は、例えば105mm角の正方形断面を有する木製角材であって、好ましくは張出し屋根11aからの荷重を強固に支持できるように、公知の各種の高耐久構造柱を用いて形成することができる。構造柱12は、図1に示すように、玄関ポーチ部11の土間部11bに取り付けられた柱受け金物19を介して、下端部が固定されると共に、上端面に張出し屋根11aの梁部材11cが固定されることにより、張出し屋根11の荷重を下方から強固に支持できるようになっている。

【0021】

ここで、柱受け金物19は、例えば4角形の鋼製プレートからなるベース部19aと、ベース部19aの中央から垂直に立設する例えば鋼製パイプからなる脚部19bと、脚部19bの上端に一体接合された例えば上端が開口面となった鋼製箱体部19cとからなる

10

20

30

40

50

。柱受け金物 19 は、アンカーボルト等を介して、ベース部 19 a を土間部 11 b のコンクリートに固定することにより、土間部 11 b に強固に取り付けられる。構造柱 12 の下端部を、鋼製箱体部 19 c の上端の開口面から挿入装着して鋼製箱体部 19 c に固定することにより、構造柱 12 は、土間部 19 から支持された状態で垂直に立設する。また、構造柱 12 の上端部は、公知の各種の接合金物（図示せず）を介して、張出し屋根 11 a の梁部材 11 c に接合固定される。

【0022】

そして、本実施形態では、構造柱 12 の外周面における、下端の柱受け金物 19 の鋼製箱体部 19 c と上端の張出し屋根 11 a の梁部材 11 c との間に挟まれる部分には、図 2 に示すように、4 方の側面 12 a を連続して覆うようにして、耐火被覆材 18 が取り付けられている。耐火被覆材 18 としては、ケイ酸カルシウム板、木片セメント板、ALC 板、窯業系サイディング、モルタル、合板等を用いることができる。また、耐火被覆材 18 の厚さを薄くしたい場合には、好ましくは 1.0 ~ 10 mm 程度の厚さの、公知の各種の熱膨張性耐火シートや発泡系耐火シートを用いることができる。より好ましくは、例えば W02006 / 82645 号公報に記載の発泡系耐火シートや、特許第 3707530 号公報に記載の発泡系耐火塗料を用いることができる。

10

【0023】

これらの耐火被覆材 18 は、例えば構造柱 12 に向けて 200 mm 程度のピッチで釘やビスを打込む等、公知の各種の方法を用いて、構造柱 12 の外周面を連続して覆った状態で取り付けることができる。構造柱 12 の各側面 12 a を覆って耐火被覆材 18 が取り付けられていることにより、木製ポーチ柱 10 を、例えば 175 mm 角以上の大断面材とすることなく、相当の耐火性能を備える木製柱とすることが可能になる。

20

【0024】

また、本実施形態では、構造柱 12 の各側面 12 a を覆って透湿防水シート 20 が取り付けられており、被係止金物 14 は、この透湿防水シート 20 の外側に取り付けられている。すなわち、透湿防水シート 20 は、構造柱 12 の各側面 12 a を覆って取り付けられた耐火被覆材 18 を、外側からさらに被覆して取り付けられることにより、構造柱 12 の各側面 12 a を覆って配設されることになる。

【0025】

ここで、透湿防水シート 20 としては、例えばポリエチレンやポリプロピレン等からなる、公知の各種の透湿防水シートを用いることができる。透湿防水シート 20 は、タッカーや粘着テープ等によって、耐火被覆材 18 の外側に連続した状態で容易に取り付けることができる。構造柱 12 の各側面 12 a を覆って透湿防水シート 20 が取り付けられていることにより、耐火被覆材 18 や構造柱 12 への雨水等による水の浸入を効果的に防いで、木製ポーチ柱 10 の耐久性をさらに向上させることが可能になる。

30

【0026】

本実施形態では、耐火被覆材 18 及び透湿防水シート 20 によって覆われた構造柱 12 の 4 方の側面 12 a には、各々、被係止金物 14 が、図 3 に示すように、上下方向に所定の間隔をおいて複数取り付けられている。本実施形態では、被係止金物 14 は、例えば横長矩形の帯板形状を有する鋼製プレートからなる。被係止金物 14 は、耐火被覆材 18 及び透湿防水シート 20 によって覆われた角形断面の構造柱 12 の各角部分に沿って上下方向に延設して取り付けられた、両側の L 字受け部材 21（図 2 参照）の間に跨るようにして、両端部分を当該 L 字受け部材 21 に各々接合することにより、構造柱 12 の各側面 12 a の中央部分に、上下方向に例えば 150 ~ 1000 mm 程度の所定の間隔をおいて複数取り付けられる。これによって、各被係止金物 14 の背面側には、両側の L 字受け部材 21 の間隔部分において、後述する係止金物 15 の係合片 15 a が係着される係着スリット 14 a（図 2 参照）が、耐火被覆材 18 及び透湿防水シート 20 との間に保持される。

40

【0027】

ここで、L 字受け部材 21 は、例えば 0.3 ~ 1.5 mm 程度の厚さを有し、スペーサとして機能する部材である。L 字受け部材 21 は、例えば鉄やアルミニウム等の合金類、又

50

は合成樹脂や木材からなり、等辺Ｌ字形状の内側面を耐火被覆材１８及び透湿防水シート２０によって覆われた構造柱１２の各角部分に密着させた状態で、構造柱１２の上下方向の略全長に亘って取り付けられる。これによって、構造柱１２の４方の側面１２ａには、中央部分を上下方向に延設して、Ｌ字受け部材２１の厚さと同様の深さを有する段差溝が形成される。この段差溝に跨るようにして被係止金物１４が取り付けられることで、被係止金物１４の背面側に係着スリット１４ａが保持されることになる。

【００２８】

そして、本実施形態では、木製ポーチ柱１０を構成する４枚の木製化粧板１３は、例えば９～３０ｍｍ程度の厚さを有する木製の板材であって、構造柱１２の幅よりも大きな幅を有している。また木製化粧板１３の背面１３ａの両側縁部には、Ｌ字形に切り欠いた噛み合せ切欠き１３ｂが形成されている。木製化粧板１３は、隣接する一対の木製化粧板１３の噛み合せ切欠き１３ｂ同士を隙間１６を保持しつつ互いに噛み合わせた状態で、後述する係止金物１５を介して、構造柱１２の４側面１２ａを外側から覆って各々取り付けられる。

10

【００２９】

ここで、４枚の木製化粧板１３は、Ｌ字形に切り欠いた噛み合せ切欠き１３ｂ同士を互いに噛み合わせて取り付けられることにより、順序を問わずに着脱可能な状態で、且つ耐火被覆材１８及び透湿防水シート２０によって覆われた構造柱１２の全周を隙間無く覆った状態で、構造柱１２の外側に各々設置されることになる。また、４枚の木製化粧板１３は、各角部において噛み合わされる噛み合せ切欠き１３ｂの間に僅かな隙間１６が保持されていることにより、過度に拘束された状態となるのを効果的に回避することが可能になる。さらに、４枚の木製化粧板１３は、その木裏を外側に向けた状態で取り付けられることが好ましい。木製化粧板１３がその木裏を外側に向けた状態で取り付けられることにより、乾燥収縮によって木製化粧板１３が湾曲変形した場合でも、噛み合せ切欠き１３ｂの隙間１６を拡大させ難くなり、雨水等の浸入が妨げられることで、耐久性及び意匠性の低下を防ぐことが可能になる。

20

【００３０】

また、本実施形態では、木製ポーチ柱１０の各角部１０ｂにおける、隣接する一対の木製化粧板１３の噛み合せ切欠き１３ｂの間に保持された隙間１６には、防水パッキン材２２が介装されている。噛み合せ切欠き１３ｂの間の隙間１６に防水パッキン材２２が介装されていることにより、当該隙間１６を介した耐火被覆材１８や構造柱１２への雨水等による水の浸入を効果的に防いで、木製ポーチ柱１０の耐久性をさらに向上させることが可能になる。

30

【００３１】

本実施形態では、図３に示すように、木製化粧板１３の背面１３ａには、係止金物１５が、上下方向に被係止金物１４と同様の例えば１５０～１０００ｍｍ程度の所定の間隔において複数取り付けられている。係止金物１５は、帯板形状を有する鋼製プレートからなり、例えば接着剤等を介して、木製化粧板１３の背面１３ａに密着させると共に、互いに平行に横方向に延設させた状態で取り付けられる。また、係止金物１５の中央部分には、例えば鋼製プレートに切り込みを入れると共に曲折加工を施して、内側に僅かに突出した後直角に折れ曲がって下方に延設する、全体として扁平なＬ字断面形状を有する係合片１５ａが設けられている。

40

【００３２】

各木製化粧板１３を、構造柱１２の各側面１２ａに沿って上方から下方にスライド移動させて係止金物１５を被係止金物１４に各々係止する際に、これらの複数の係止金物１５の係合片１５ａを、上述の各被係止金物１４の係着スリット１４ａに各々係着することにより、木製化粧板１３が、構造柱１２との間に通気空間１７を保持しつつ構造柱１２の４側面１２ａを外側から覆って、各々着脱可能に安定した状態で取り付けられることになる。これによって、本実施形態の木製ポーチ柱１０が形成されることになる。

【００３３】

50

また、本実施形態では、係止金物 15 は、その一端部に、直角に折れ曲がった折曲り挿入片 15 b を備えると共に、その他端部に、内側への段差によって木製化粧板 13 の背面 13 a との間に挿入スペースを形成するスペーサ片 15 c を備えている（図 2 参照）。木製化粧板 13 を構造柱 12 の 4 側面 12 a の外側に各々取り付ける際に、隣接する各一对の側面 12 a を覆う各一对の木製化粧板 13 に取り付けられた係止金物 15 を、一方の係止金物 15 の一端部の折曲り挿入片 15 b を他方の係止金物 15 の他端部のスペーサ片 15 c の裏側に挿入配置することで互いに係止することにより（図 2 参照）、4 枚の木製化粧板 13 に各々設けられた係止金物 15 の一体化を図って、さらに安定した状態で木製化粧板 13 を取り付けることが可能になる。

【0034】

10

そして、上述の構成を備える本実施形態の木製独立柱（木製ポーチ柱）10 によれば、被覆材として用いる木製の板材である木製化粧板 13 に割れを生じ難くさせたり、雨水や湿気、雑菌等による影響を受け難くさせたり、交換を容易に行えるようにして、木製柱としての美観を長期間容易に保持することが可能になる。

【0035】

すなわち、本実施形態によれば、木製化粧板 13 は、構造柱 12 の各側面 12 a に取り付けられた複数の被係止金物 14 に、当該木製化粧板 13 の背面 13 a に取り付けられた複数の係止金物 15 を上方から各々係止することによって構造柱 12 の各側面 12 a に各々取り付けられるようになっており、木製化粧板 13 は、背面 13 a の両側縁部に噛み合せ切欠き 13 b を備えており、木製ポーチ柱 10 の各角部 10 b において、隣接する一対の木製化粧板 13 の噛み合せ切欠き 13 b 同士を隙間 16 を保持して噛み合わせることで、木製化粧板 13 が、構造柱 12 との間に通気空間 17 を保持して取り付けられているので、噛み合せ切欠き 13 b の間に隙間 16 が保持されて拘束を緩めた状態となっていることにより、木製化粧板 13 に割れが生じるのを効果的に抑制することが可能になる。また、木製化粧板 13 と構造柱 12 との間に通気空間 17 が保持されていることにより、雨水や湿気、雑菌等による影響を受け難くなる。さらに、4 枚の木製化粧板 13 は、両側縁部の L 字形に切り欠いた噛み合せ切欠き 13 b 同士を噛み合わせると共に、複数の被係止金物 14 に、複数の係止金物 15 を、上方から各々係止することによって構造柱 12 の外側に取り付けられていることにより、木製化粧板 13 に劣化や陳腐化が生じた際には容易に交換することができるので、木製化粧板 13 を必要に応じて適宜容易に交換して、木製柱としての美観を長期間容易に保持することが可能になる。

20

30

【0036】

また、本実施形態の木製独立柱（木製ポーチ柱）10 によれば、構造柱 12 の各側面 12 a を覆って耐火被覆材 18 が取り付けられているので、耐火被覆材 18 の厚さを抑制することにより、大断面材とすることなく、例えば省令準耐火構造の建築物としての耐火性能を十分に確保することが可能になる。

【0037】

なお、本発明は上記実施形態に限定されることなく種々の変更が可能である。例えば、構造柱の各側面を覆って耐火被覆材や透湿防水シートを取り付ける必要は必ずしも無い。また、木製化粧板の下端部に通気水切材を設けて、木製化粧板と構造柱との間の通気空間への通気を促進したり、木製化粧板の外周面に沿って流下する雨水等による水の水切りを促進するようにすることもできる。さらに、木製独立柱が立設する部分の天井面にくぼみ部を設けて、木製化粧板を構造柱に沿って上下方向にスライド移動させることによる木製化粧板の着脱作業を、容易に行えるようにすることもできる。

40

【0038】

さらにまた、木製化粧板が取り付けられる構造柱は、正方形の断面形状を有する角材である必要は必ずしもなく、矩形の断面形状を有する角材であっても良い。扁平な壁柱等の、複数の角材や面材を組立てて形成された構造柱であっても良い。木製化粧板は、構造柱の断面形状に対応させて、異なる幅の複数種類のものを用いることもできる。木製独立柱は木製ポーチ柱である必要は必ずしも無い。

50

【符号の説明】

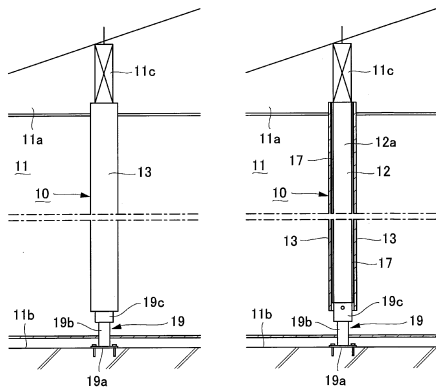
【 0 0 3 9 】

- 1 0 木製独立柱（木製ポーチ柱）
- 1 0 a 角部
- 1 1 玄関ポーチ部
- 1 2 構造柱
- 1 2 a 側面
- 1 3 木製化粧板
- 1 3 a 背面
- 1 3 b 噛み合せ切欠き
- 1 4 被係止金物
- 1 4 a 係着スリット
- 1 5 係止金物
- 1 5 a 係合片
- 1 6 噛み合せ切欠き間の隙間
- 1 7 通気空間
- 1 8 耐火被覆材
- 1 9 柱受け金物
- 2 0 透湿防水シート
- 2 1 L字受け部材
- 2 2 防水パッキン材

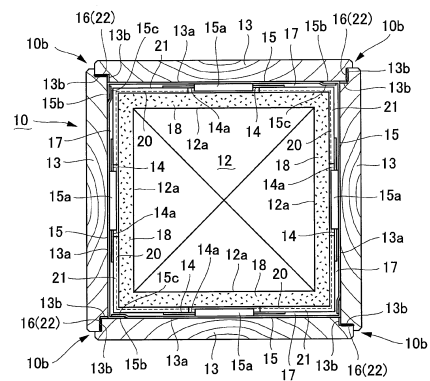
10

20

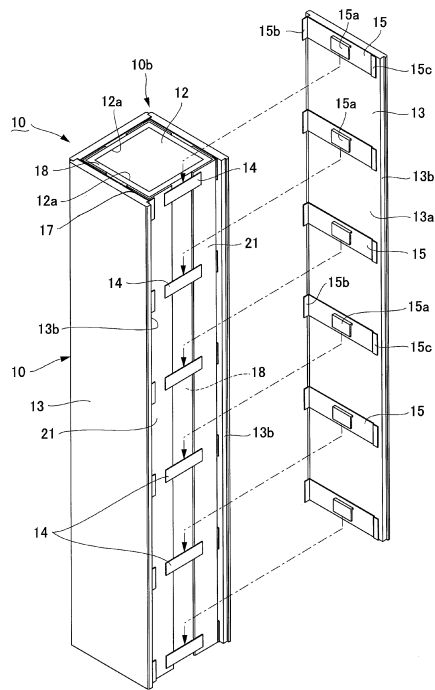
【図 1】



【図 2】



【図 3】



フロントページの続き

- (72)発明者 蛇石 貴宏
東京都千代田区大手町一丁目3番2号 住友林業株式会社内
- (72)発明者 梅田 泰成
東京都千代田区大手町一丁目3番2号 住友林業株式会社内
- (72)発明者 高木 郷
東京都千代田区大手町一丁目3番2号 住友林業株式会社内
- (72)発明者 杉本 貴一
東京都千代田区大手町一丁目3番2号 住友林業株式会社内

審査官 五十幡 直子

- (56)参考文献 特開2001-207620(JP,A)
特開2001-311291(JP,A)
実開平04-094012(JP,U)
特開2003-268955(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

E 0 4 B	1 / 0 0
E 0 4 C	3 / 3 6
E 0 4 F	1 3 / 0 7 3
E 0 4 F	1 9 / 0 0